

「腸内細菌学雑誌」投稿規定

2025年6月9日

本誌「腸内細菌学雑誌」には腸内菌に関連する総説、報文、ノート、実験講座、研究室紹介、関連情報、会報などを掲載します。

本誌に投稿を希望される際は、下記の規定によってください。

1. 報文およびノートは原著論文とし、他誌に未発表かつ公表予定のないものに限ります。また、総説、実験講座、研究室紹介、関連情報、会報は原則として編集委員会より依頼します。
2. 原稿は、報文刷上り6頁（原稿14枚相当・図表含む）、ノート刷上り4頁（原稿9枚相当・図表含む）以内を原則とし、超過分については別途超過ページ代を請求します。
3. 別刷は有料になりますので、ご希望の場合はお問い合わせ下さい。
4. 原稿は和文とし、オリジナル原稿を5MB以下のファイルサイズにてEメールでお送りください。メール投稿が困難な場合は、オンラインストレージにてお送りください。編集部にて受信後、3営業日以内に受信メールを返信するので、返信が届かない場合は下記へ確認してください。
5. 編集部が編集委員の意見にもとづいて著者に論文の訂正を求めた論文で、修正稿の提出に3カ月を経過した場合には論文は取り下げたものとします。
6. 本誌に掲載された論文等の著作権は、公益財團法人腸内細菌学会に帰属します。

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-12

（公財）腸内細菌学会

「腸内細菌学雑誌」編集部 (Tel. 03-5319-2669)

メールアドレス bm@ipec-pub.co.jp

「腸内細菌学雑誌」執筆規定

1. 原稿は次の順に配列する。1) 表紙、2) 本文、3) 表、4) 図、5) 図説明
2. 表紙には、表題、著者名、所属機関名、表題英訳、著者ローマ字名、所属機関英訳名、本文・表・図の各原稿枚数、校正送付先を記す。
3. 報文は原則として、要旨、英文Summary、（序）、材料と方法、成績、考察、（謝辞）、文献の区分を設けて記載する。ただし、（ ）を付したものは見出しをつけない。これらの字は中央に書き、前行は1行あける。総説およびノートの記載はこれに従わなくてもよいが、要旨および英文Summaryは記載する。なお、英文Summaryは別葉とし、Key words (3 ~ 7) を添える。
4. 記述・用語について
 - 1) 常用漢字、現代かなづかい、横書きとする。数字は算用数字とする。
 - 2) 微生物の名称は、国際原核生物系統分類学委員会 (International Committee on Systematics of Prokaryotes) の定める国際原核生物命名規約 (International Code of Nomenclature of Prokaryotes) に従う。微生物名は、慣用されているもののほかは学名を用いる。慣用名を用いる場合も学名を併記する。学名はイタリック体とする。なお、International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology誌に掲載された規約の2022年改定版は <https://www.microbiologyresearch.org/content/journal/ijsem/10.1099/ijsem.0.005585> から参照することができる。
 - 3) 実験動物名は、イヌ、サル、ニワトリ、ハムスター、マウス、モルモット、ラットなどカタカナ書きとし、その学名はイタリック体とする。
 - 4) 専門用語は特殊なものを除き、原則として和文とする。とくに原語の併記を必要とするものは和文の次に併記する（固有名詞以外は小文字）。
 - 5) 専門用語を略記する場合は、初出のときにその全語を記す（常用されているものは除く）。
 - 6) 単位・数量を表すには、m, cm, mm, μm , nm, L, dL, mL, μL , kg, mg, μg , ng, pg, °C, %, hr, min, sec 等を用いる。数字はアラビア数字

を用いる。

- 7) 遺伝子名は、原則としてイタリック体とする。なお、それぞれの生物種で用いられている表記法に従い、適切に記載する。例えば、ヒト遺伝子は、全て大文字のイタリック体とする（例：*AKT*, *BAX*）。マウス（ラット）遺伝子は、語頭の1文字は大文字、2文字目以降を小文字のイタリック体とする（例：*Egfr*, *Ngf*）。細菌の遺伝子は、最初の3文字を小文字、4文字目は大文字のイタリック体とする（例：*his*, *lacZ*）。

5. 図、表および写真

- 1) 図、表、および写真には表題を付す。表の表題は表の上段に書き、図および写真の表題と説明は別紙にまとめて列記する。
- 2) 図はそのまま製版できるように作成する。
- 3) とくに必要でない限り、同一データを図と表で重複させない。
- 4) 図、表および写真などの挿入箇所は、本文中欄外に指定する。
- 5) カラー印刷は、原則として著者の実費負担とする。
- 6) 引用文献は、本文の最後に引用順にまとめて番号をつけ、学術雑誌にあっては、著者名、表題、雑誌名、発行年、巻、頁（始頁-終頁）を記入する。引用文献の著者名が7名以上の場合は最初の6名を書き、他は・他、またはet al.とする。また、単行本にあっては、著者名（一部引用のときは、表題、編者名）書名、発行地、発行者、発行年（一部引用のときは、頁）を記入する。本文中の引用方法は文献番号を括弧に入れて記すこととする。ただし未発表の文献は含めないこと。私信は本文中に記す。

- 例：(1) Falk W, Frank OG. Quick Reference Guide for ARB. Bremen: Microbial Genomic Group Max Planck Institute for Marine Microbiology; 2004.
- (2) 松本健治. 腸内細菌叢とアレルギー疾患. アレルギー・免疫. 2004; 11: 46-54.
- (3) Wang M, Ahrne S, Antonsson M, Molin G. T-RFLP combined with principal component analysis and 16S rRNA gene sequencing: an effective strategy for comparison fecal

- microbiota in infants of different ages. J Microbiol Methods. 2004; 59: 53-69.
- (4) Ohkusa T, Koido S, Nishikawa Y, Sato N. Gut microbiota and chronic constipation: a review and update. Front Med (Lausanne). 2019; 6: 19.
- (5) Yonezawa H, Osaki T, Kurata S, Fukuda M, Kawakami H, Ochiai K, et al. Outer membrane vesicles of *Helicobacter pylori* TK1402 are involved in biofilm formation. BMC Microbiol. 2009; 9: 197. doi.org/10.1186/1471-2180-9-197
- (6) 鈴木邦彦、久米村恵、樋渡信夫. 便通異常と腸内フローラ. 光岡知足編. 腸内フローラと大腸疾患. 東京：学会出版センター；2003. p.27-41.
7. 投稿原稿に、他雑誌等の図表を転載する場合、あらかじめ転載許可を受けておく。
8. 利益相反（COI）について
- 投稿原稿の最後に、「COI開示」として必要事項を以下の例を参考にして記載すること。
- ①申告すべき COI 状態がない場合
 <記載例>
 発表内容に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などは無い。
- ②申告すべき COI 状態がある場合
 <記載例>
 腸内細菌学会の規定に従い、COI開示をする。発表内容に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などを以下に示す。
1. 役員・顧問：あり（XX 食品）
 2. 株保有状態：あり（XX 乳業）
 3. 特許使用料：なし
 4. 講演料・原稿料：あり（XX 製薬）
 5. 受託研究費・共同研究費・奨学寄付金：なし
 6. 寄付講座所属：（XX 乳業）
- なお、申告すべき COI 状態の基準については腸内細菌学会 HP に記載の「利益相反規定」を参照のこと。